

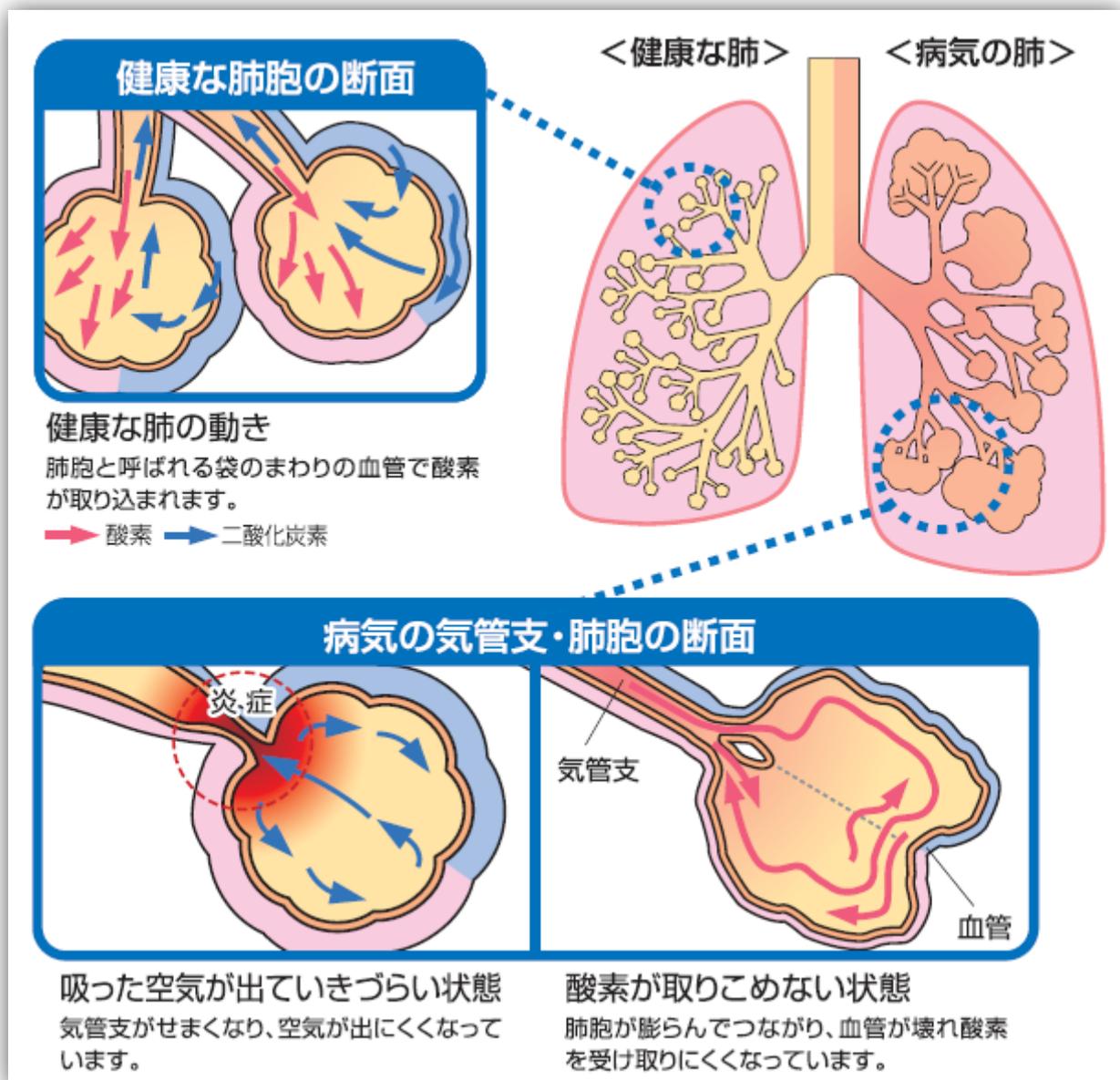
週刊 タバコの正体

長年タバコを吸い続けると、かなりの確率で COPD (慢性閉塞性肺疾患) という病気にかかります。この病気になると、肺が縮む事も膨らむ事もできなくなるので最悪の場合、酸素ボンベの助けを借りなければ呼吸ができなくなります。では、なぜそんな状態になってしまうのでしょうか。

下の図を見てください。タバコの煙に含まれる有害物質によって、肺胞と呼ばれる小さな袋が膨らんで隣接する肺胞同士がつながってしまい、肺全体が膨らんでしまうのです。そして肺胞の周りの血管も壊れるので、酸素を取り込みにくくなります。

こんな事になるのを知らないで、タバコを吸い始めた人がかわいそうです。

産業デザイン科 奥田 恭久



ファイザー株式会社

「COPD完璧マニュアル」より引用